

日本物理学会 第81回年次大会 東京大学
領域8 インフォーマルミーティング 議事録

日時：9月16日 12:30～13:30 @ 東京大学駒場キャンパス A104
議長：有馬孝尚（領域代表、東大新領域、理研 CEMS）
司会：水野竜太（運営委員代表、阪大）
書記：森本高裕（書記、京大）

【議題】
・学生優秀発表賞 受賞者の紹介
受賞者が紹介され、賞状が授与された。

受賞者名	所属	講演題目
鈴木 大斗	広島大院先進理工	直方晶EuPdAl ₆ の磁場誘起相における面内異常ホール効果の観測
梶 昌孝	阪大理	平坦バンドとディラック点を有するα-T ₃ 格子におけるスピン揺らぎ媒介カイラルd波超伝導
渡邊 寛大	広島大院先進理工	Ce系重い電子金属間化合物CeNi _{9-x} CuxGe ₄ を用いた磁気冷凍によるサブケルビン温度の実現とエントロピー評価
松本 亜巳	京大理	モアレ超伝導体における超伝導音響ガルバノ効果
小山 千翔	東大新領域	価電子密度解析を用いたスピネル型酸化物AV ₂ O ₄ (A=Fe,Mn)の軌道状態の研究
中沢 正剛	名大理	カゴメ金属のループ電流相が誘起する常伝導および超伝導カイラリティー状態

議題1：プログラム編集について（水野）
プログラム編成・講演数等について報告がなされた。

一般事項

- 全てのセッションが現地開催。講演・聴講ともにオンライン参加なし。
- 最終日午後の講演なし。
- 領域8主催のシンポジウム(1件)は以下のように設定した：
 - 「Electronic correlation, superconductivity, and thermoelectric properties in high entropy alloy materials」 2日目午後
- 2024, 2025 年次大会と比べ講演者の総数に大きな変化はないものの、徐々に減少。

反省点

- 午後の終了時間を勘違いしており、運営委員の先生方に並び替えをお願いする直前

で慌てて修正する羽目になった。

2. 領域 8 のホームページや引き継ぎ資料を AI に読み込ませ、情報を整理することを試みたが、古い情報や過去の委員の個人的な考えなども混在しており、うまく整理できなかった。現状では人間が読んでも必要な情報を把握しづらくなっているため、ホームページも含め、情報の整理・更新を進めた方がよい。

議題 1：プログラム編集について（水野）

一般講演(申込みベース)

2026秋 (東京大学)			
	口頭	ポスター	合計
低温	197	89	286
磁性	81	70	151
全体	278	159	437

2026春 (オンライン)			
	口頭	ポスター	合計
低温	96	17	113
磁性	40	27	67
全体	136	44	180

2025秋 (広島大学)			
	口頭	ポスター	合計
低温	186	87	273
磁性	93	83	176
全体	279	170	449

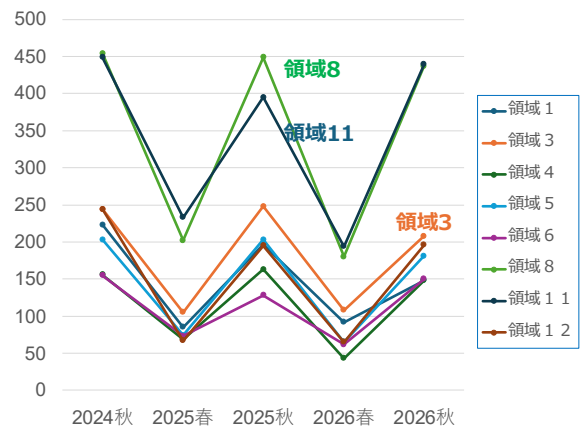
“磁性”と“低温”の定義
磁性：第一キーワードが4f電子系または5f電子系
低温：第一キーワードがそれら以外

今大会の概要集提出率

領域	講演者数	論文提出数	論文提出率
素粒子論領域	198	110	55.5%
素粒子実験領域	230	204	88.6%
理論核物理領域	123	105	85.3%
実験核物理領域	201	183	91.0%
宇宙線・宇宙物理領域	298	224	75.1%
ビーム物理領域	73	66	90.4%
計算物理領域	114	99	86.8%
領域1	153	148	96.7%
領域2	134	127	94.7%
領域3	215	208	96.7%
領域4	160	148	92.5%
領域5	183	181	98.9%
領域6	154	150	97.4%
領域7	142	136	95.7%
領域8	446	437	97.9%
領域9	114	111	97.3%
領域10	102	101	99.0%
領域11	471	439	93.2%
領域12	209	196	93.7%
領域13	86	81	94.1%
物理と社会	0	0	--
領域横断（理事会）	29	19	65.5%
合計	3835	3473	90.5%

議題 1：プログラム編集について（水野）

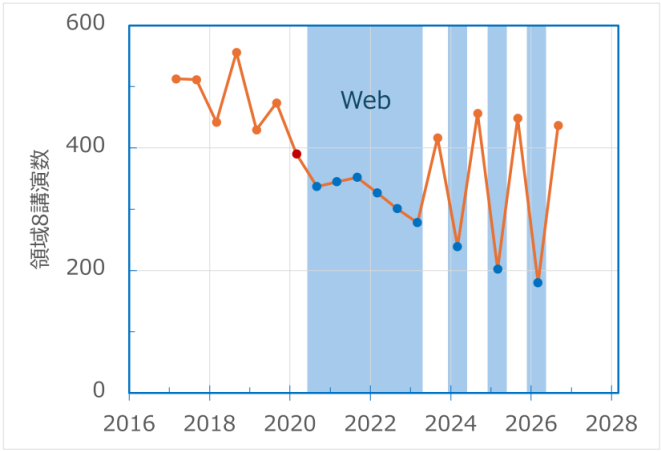
他領域との比較（直近4大会、物性上位8領域）



■ 他領域と比較して増減に大差なし？

	2024秋	2025春	2025秋	2026春	2026秋
素粒子論	217	138	196	115	110
素粒子実験	247	178	211	170	204
理論核物理	124	113	130	84	105
実験核物理	173	139	165	146	183
宇宙線・宇宙物理	301	139	301	154	224
ビーム物理	59		56		66
計算物理			110		99
領域1	223	85	197	92	148
領域2	109	70	104	56	127
領域3	244	105	248	108	208
領域4	156	69	163	43	148
領域5	203	74	203	65	181
領域6	155	73	128	62	150
領域7	110	42	93	53	136
領域8	454	202	449	180	437
領域9	124	57	85	58	111
領域10	116	46	78	41	101
領域11	449	233	395	194	439
領域12	244	67	195	65	196
領域13	65	77	67	65	81
物性合計	2652	1200	2405	1082	2463
学会合計	3773	1907	3574	1751	3454

議題 1 : プログラム編集について (水野)



注) 講演数は一般講演 (申込ベース)

2026秋 : 437 (東大)
2026春 : 180 (Web)
2025秋 : 449 (広島大)
2025春 : 202 (Web)
2024秋 : 460 (北大)
2024春 : 239 (Web)
2023秋 : 417 (東北大)
2023春 : 278 (Web)
2022秋 : 301 (東工大+Web)
2022春 : 327 (Web)
2021秋 : 352 (Web)
2021春 : 345 (Web)
2020秋 : 337 (Web)
2020春 : 390 (コロナ中止)
2019秋 : 474 (岐阜大)
2019春 : 430 (九州大)
2018秋 : 556 (同志社大)
2018春 : 442 (東京理科大)

議題 2 : 次期領域運営委員の紹介 (水野)

次期領域運営委員の紹介が行われた。

次期 (2026年10月～ 2027年3月)

領域代表 (2026年4月～ 2027年3月) 有馬 孝尚 (東大新領域、理研CEMS)

領域副代表 (2026年4月～ 2027年3月) 柳瀬 陽一 (京大理)

運営委員

	2026年4月-2027年3月	2026年10月-2027年9月
低温	鈴木博人 (東北大/実験) 代表 大岩 陸人 (北海道大学/理論) web担当 松原 愛帆 (東京理科大/理論) 書記	山神 光平 (JASRI/実験) 副代表 田財 里奈 (理研/理論) 書記
磁性	福井 毅勇 (立命館/理論) 副代表 脇倉 和平 (岩手大/実験) 学生賞	清水 真 (阪大/理論) 代表 金城 克樹 (東北大/実験) web担当

議題 3 : 次々期運営委員の推薦・承認 (水野)

次々期運営委員の推薦・挨拶ののち、承認された。

低温・実験 長田 礎 東京大学
低温・理論 森 仁志 東北大学
磁性・理論 渡邊 光 北海道大学
磁性・実験 草ノ瀬 優香 名古屋大学

磁性・実験 今 布咲子 北海道大学

議題 4：次々期領域副代表の推薦・承認（柳瀬）

次々期領域副代表が推薦され、承認された。

求幸年（東大）

議題 5：領域委員会報告（有馬）

シンポジウム提案等の報告が行われた。

一般シンポジウム： Electronic correlation, superconductivity, and thermoelectric properties in high entropy alloy materials

理事会企画シンポジウム：“Frontiers of Superconductivity: From Strong Correlations to Quantum Materials”

招待講演：“Magnetism of low-dimensional orbital-selective Mott phase”，Herbrych Jacek

チュートリアル講演：“結晶の対称性と電子状態”，播磨尚朝
（なお、特例として共催シンポジウムが全体で 7 件承認された。）

オンライン大会に関する検討→継続の方向

議題 6：領域再編について（有馬）

領域再編の方針、プログラムユニットの構成について説明、議論が行われた。

有馬代表からの説明：

8 月 18 日に臨時領域委員会が開催され、領域再編の骨子案が示された

基本方針

- ・「プログラム・ユニット」～プログラム編成を行うためのコミュニティの単位
- ・プログラム・ユニットを組み合わせることで物性分野全体を再編する。
- ・各領域の規模が同程度になるように再編する（領域 13 は除外）。

プロセス

- ・プログラム・ユニットの確定（9 月中に各領域から提出、WG で改訂、提示）
- ・ 2027 年 9 月をめどに方針を固める
- ・ 2028 年 9 月年次大会を目標に領域再編

提示されたプログラム・ユニット v0 のうち領域 8 関連とされたもの

プログラム・ユニット	現領域	主要キーワード
磁性	3,8	化合物磁性、磁性一般
スピン系	3,11,7,8	量子スピン系
二次元・層状物質	4,7,8	グラフェン、ディラック電子系、層状物質
トポロジカル	1,3,4,5,7,8,9	
超伝導	6,7,8	低温、超伝導、密度波

今回の年会のプログラム編成（色は関連するプログラムユニット）

14am: 相転移・強相関、Ce系超伝導、銅酸化物・ニッケル酸化物超伝導

14pm: 多極子・マルチフェロイクス、遷移金属・希土類磁性、相転移・軌道自由度

15am: スキルミオン・トポロジカル磁性、熱電材料・輸送現象、銅酸化物超伝導、フラストレー
ト磁性

15pm: 多極子・カイラリティ、U系超伝導、量子磁性

16am: 交替磁性・異常ホール効果、非相反・交差相関、新物質・物性評価、鉄系超伝導体

16pm: 超伝導理論、相転移・電子秩序、重い電子系

17am: 相転移・秩序現象、その他超伝導、ニッケル酸化物超伝導体

以下議論：

・プログラムユニット（PU）の構成についての議論（PU を足すかどうか、今年のプログラムとの紐づけなど）

- 相転移、強相関を PU としていれたい
- 多極子を磁性の主要キーワードか PU としていれたい
- 強相関・重い電子系を PU としていれたい
- 磁性とスピン系を一緒にすべき（領域 3 と 8 の重複の解消）
- 熱電をどういれるか？→「熱輸送」をプログラム・ユニットとしていれ、領域 8 でない人も参入してもらうとよいのでは。

・今後の領域再編の方針について

- プログラム・ユニット群をいくつかの領域にわけると。今より領域を大きくし、人数を同じくらいの領域へと再編する方針
- 領域再編のワーキンググループ(WG)が作られて、そこで議論される。WGメンバーが各領域の意見をいれながら PU 群を新領域にまとめていく
- キーワードの重複については？→可能な限りさけていくが、境界領域は領域合同セッションなどで解消することになるのでは
- 今後の再編のスパン・運用方針は？→WG で議論すると予想される。少なくとも 5 年以上のはず。
- 2028 年度 9 月以降の学会の申し込み方は？→再編後の領域に申し込んで、新キーワ

ードをあげる。

- キーワードを適切に入っていない場合がある。PU への割振りはだれがやるのか?—>新領域内でとじて割り振りを行うはず。再編後の領域の運営委員でやることになるはず。
- PU は領域間でシェアされるか?—>再編後の PU は必ず一つの領域が担当する。運用開始後重なってくる部分は今後議論。
- 今後の手順は?—>9 月中に提案のたたき台のバージョンを領域 8 内で諮る。その後学会事務局へ案を提出する。

議題 7：領域 8 学生優秀発表賞について（有馬）

次回学生優秀発表賞について周知がなされた。

議題 7：領域 8 学生優秀発表賞について（有馬）

選考委員長：柳瀬

募集期間 10月中旬～10月末

- ・詳しくは、本学会の終了後に、領域メーリングリスト、ホームページで周知します
- ・応募者多数の場合は、事前書類選考を行います

参考：前回の募集要項（領域8ホームページ）

本審査 2027年3月(オンライン開催)の学会発表

- ・発表形式は学会発表に準じて行います

多数の応募をお待ちしております

議題 8：その他（有馬）

榊原さんから SCF 2026（鳥取で10月開催）の紹介が行われた。



✓ 超伝導、磁性、熱電材料などを対象

✓ 「複雑性」(電子相関、ハイエントロピーなど)
に由来する物性解明・材料開拓・理論手法開発

✓ 実験-理論間および学生-専任研究者間のネットワーキング

特に**大学院生～ポスドク年代**の方の参加を
追加募集しています！
(もちろんスタッフ、PIの方々也大歓迎)

招待講演者
理論6、実験6名ずつ



※島根じゃないです！(重要)



23午後～25午前、2泊3日



「scf2026 超伝導」
で検索をお願いします！

登録締め切り延長 9/28(月)まで